

公益社団法人 教育文化協会
2017年度事業報告（2017年7月1日～2018年6月30日）

I. 事業の概要

教育文化協会は、2017年度も、設立当初からの事業目的である労働教育及び教育文化活動の振興、広く勤労者の生涯にわたる学習と、その家族も含めた文化活動の支援等をもって、勤労者とその家族の生活及び文化教養の向上と自主的・民主的な労働運動、並びに我が国社会の健全な発展に寄与すべく、これまで一貫して展開してきた「労働運動の有する公益性」を踏まえた事業活動の質的充実を努めつつ、教育、文化、出版・広報の各事業の着実な展開に注力した。

これから社会に出る大学生に対して、働くということについて自ら考え、労働組合の役割や労働運動の意義について理解を深めてもらう目的で、大学の正規の授業科目として実施している「連合寄付講座」は、今年度も同志社大学、一橋大学、埼玉大学、法政大学、中央大学の計5大学で開講した。2005年に日本女子大学ではじめて寄付講座を開講して以降、これまでの受講生はのべ約7,500名となった。

また、「連合寄付講座」のもつ社会的意義をふまえ、「地方連合会寄付講座」の開設拡大に向けて連合本部、当該地方連合会と連携をはかった結果、3地方連合会において新規開設が図られた。

労働運動・社会運動の将来を担うリーダー養成を目的として開講している「Rengo アカデミー・マスターコース」では、第16回の受講生20名が修了論文を提出し、修了式を行った。また、第17回マスターコースには22名の受講生が参加し、前・後期の合宿プログラムを実施した。

2年に一度実施している「連合・ILEC 幸せさがし文化展」は、10回目の開催を数え、第15回連合定期大会において、絵画、写真、書道、俳句、川柳の各部門の上位受賞者を表彰するとともに、同大会会場および都内1カ所において入賞作品の展覧会を行った。

第14回「私の提言－『働くことを軸とする安心社会』の実現に向けて」募集事業では、過去最多となる67編の応募提言を得て審査を行い、第15回連合定期大会において、入賞提言の表彰と提言要旨の発表を行った。

出版・広報では、『連合運動史第5巻』および連合新書『ものがたり現代労働運動史1』を刊行するとともに、第10回「連合・ILEC 幸せさがし文化展」入賞作品集を発行した。また、第14回「私の提言－『働くことを軸とする安心社会』の実現に向けて」の入賞提言集等を頒布した。

1. 教育事業

(1) 連合寄付講座

「連合寄付講座」は、大学生を対象に、労働組合の存在とその役割、労働運動の意義について正しく発信したいとの問題意識を当該大学に受け止めていただき、2005年4月の日本女子大学家政学部での開設を皮切りに、同志社大学社会学部(2006年4月～)、一橋大学社会学部(2007年4月～)、埼玉大学経済学部(2007年10月～)、法政大学キャリアデザイン学部(2013年9月～)、中央大学経済学部(2017年4月～)において、順次開設してきた。日本女子大学家政学部は2008年3月に設置期間が終了したが、他の5大学は現在も寄付講座の開設を継続中である。これらの寄付講座は、公益財団法人総評会館からの寄付金を一部充当し、運営している。

連合寄付講座は、①学生が働くうえでの課題について具体的に理解し、その課題解決にむけて考える姿勢を培うこと、②学生が労働組合の役割や企業のマネジメントの意義について自ら考える能力を養うこと、③大学と労働組合との連携を強化し、双方の今日的なニーズに積極的に応えることを目的に、単位認定科目(2単位)として開設している。

今年度(2017年7月～2018年6月)に実施した連合寄付講座の概要は、以下のとおり。

1) 講義科目の名称と開講時期、履修者数

①同志社大学社会学部「働くということー現代の労働組合」

- ・2017年度春学期(2017年4月～7月)履修者173名
- ・2018年度春学期(2018年4月～7月)履修者173名

②一橋大学社会学部「現代労働組合論」

- ・2017年度春・夏学期(2017年4月～7月)履修者148名
- ・2018年度春・夏学期(2018年4月～7月)履修者192名

③埼玉大学経済学部「働くということと労働組合」

- ・2017年度第4ターム(2017年11月～2018年1月)履修者148名

④法政大学キャリアデザイン学部「働くということと労働組合」

- ・2017年度秋学期(2017年9月～2018年1月)履修者35名

⑤中央大学経済学部「働くということー現代の労働組合」

- ・2017年度前期(2017年4月～7月)履修者32名
- ・2018年度前期(2018年4月～7月)履修者35名

2) 対象学年・学部

①同志社大学社会学部 ・2年生以上全学部生、単位互換制度による他大学学生、社会人聴講生(京カレッジ参加者)

*京カレッジとは、京都市と大学コンソシアム京都が主催する生涯学習講座、同志社大学は連合寄付講座など5科目を提供。

*連合寄付講座は全学部共通の教養科目(1年生除く)

- ②一橋大学社会学部 ・2年生以上全学部生、単位互換制度による他大学学生、社会人聴講生
 *多摩地区国立5大学（東京外国語大学・東京学芸大学・東京農工大学・電気通信大学および一橋大学）と津田塾大学において、それぞれ単位互換制度がある。
- ③埼玉大学経済学部 ・経済学部全学年、社会人聴講生
- ④法政大学キャリアデザイン学部
 ・2年生以上全学部生（市ヶ谷キャンパス）、社会人聴講生
- ⑤中央大学経済学部 ・経済学部3年生以上、社会人聴講生

3) 講座の企画と運営

講座のプログラム作成や運営は、当該大学学部と当協会で協議し、当該大学学部において決定する。講義については、当該大学学部専任教員を配置し、ゲストスピーカーが担当する。ゲストスピーカーは、当協会が当該大学学部と相談のうえ、労働組合役員を中心に選出する。

4) 担当教員

- ①同志社大学社会学部 石田光男教授、上田眞士教授、三山雅子教授、寺井基博准教授
- ②一橋大学社会学部 林大樹特任教授、中北浩爾教授
- ③埼玉大学経済学部 禹宗杭教授、金井郁准教授
- ④法政大学キャリアデザイン学部
 梅崎修教授、佐藤厚教授、上西充子教授、武石恵美子教授
- ⑤中央大学経済学部 阿部正浩教授、鬼丸朋子教授

5) 設置期間（寄付講座に関わる協定締結期間）

- ①同志社大学社会学部 ・2018年4月～2019年3月までの1年間
- ②一橋大学社会学部 ・2018年4月～2021年3月までの3年間
- ③埼玉大学経済学部 ・2017年10月～2020年9月までの3年間
- ④法政大学キャリアデザイン学部
 ・2016年9月～2018年8月までの2年間
- ⑤中央大学経済学部 ・2018年4月～2019年3月までの1年間

(2) 地方連合会寄付講座への支援・協力

当協会では、地方連合会が主体となって開設する大学での寄付講座に関して、当該地方連合会に対する財政支援も含め、開設準備・運営等について協力している。

今年度は、開講して2～6年目を迎える地方連合会寄付講座（11 地方連合会・11 大学）に対して、引き続き支援・協力した。

また、地方連合会寄付講座の新規開設に向けて、連合本部、地方ブロック、地方連合会と連携を図る中で、2017年度後期（2017年10月～2018年1月）から、連合神奈川が関東学院大学で、連合宮崎が宮崎大学で、また2018年度前期（2018年4月～7月）から、連合京都が京都女子大学で、寄付講座をそれぞれ新規開設し、当協会は、開設準備・運営等について協力した。

<2017年度に開講した地方連合会寄付講座>

地方連合会	大学・学部；講義科目名	開講時期	開設年度
連合山形	山形大学人文社会科学部；労働と生活	2017年10月～2018年2月	2012
連合佐賀	佐賀大学経済学部；働くということと労働組合	2017年10月～2018年2月	2012
連合福井	福井県立大学経済学部；ケーススタディで学ぶ仕事の現場－働く側から見た会社選びのために－	2018年4月～7月	2013
連合三重	三重大学人文学部；働くということと労働組合	2017年10月～2018年2月	2013
連合大分	大分大学経済学部；働くということと労働組合	2018年4月～7月	2014
連合長崎	長崎大学経済学部；現代の労働と労働組合	2018年4月～7月	2014
連合東京	首都大学東京都市教養学部；人間らしく働くこと・働く者の権利・権利を守ること	2017年10月～2018年2月	2015
連合岩手	岩手大学人文社会科学部；現代の諸問題－労働問題とワークルール	2018年4月～7月	2015
連合山口	山口大学経済学部；現代労働論	2018年4月～7月	2015
連合広島	広島修道大学商学部；働くこととワークルール	2017年9月～2018年1月	2016
連合福岡	九州大学法学部；ワークルールとキャリアデザイン	2018年4月～7月	2017
連合神奈川 （新規）	関東学院大学経済学部・経営学部；働き方と労働組合	2017年9月～2018年1月	2017
連合宮崎 （新規）	宮崎大学地域・学際系；労働・雇用リテラシー講座	2017年10月～2018年2月	2017
連合京都 （新規）	京都女子大学現代社会学部；働く女性のための基礎講座	2018年4月～7月	2018

※三重大学では2年ぶり、長崎大学では1年ぶりに連合寄付講座が開講された。

※昨年度開講した大阪市立大学（連合大阪寄付講座）は、隔年開講のため今年度は開講が見送られた。

※このほか連合沖縄では沖縄大学において、自主的に寄付講座を実施している。

（3）Rengo アカデミー・マスターコース

2001年より開講している「Rengo アカデミー・マスターコース」は、労働運動・社会運動の将来を担うリーダーの育成を目的として、合宿教育期間と自学・自習期間を組み合わせ1年間で修了するプログラムである。具体的には、前・後期各6日間の集中合宿に加え、合宿期間とは別に必修ゼミも行いながら、各自の考察を深めたい課題について修了論文をまとめていく。第16回までに387名が受講し、受講生は、それぞれの立場で連合運動の一翼を担うなど活躍し、一定の成果を上げている。

1) 第16回マスターコース修了論文報告会・修了式

2017年7月3日までに受講生から修了論文の提出を受けた後、同年9月29日に第16回マスターコース修了論文報告会および修了式を開催した。今年度は初の試みとして、修了式に先立ち修了論文報告会を開催し、南雲理事長、高木 Rengo アカデミー副校長、中村 Rengo アカデミー教務委員長およびゼミの担当講師である木本一橋大学名誉教授、毛塚法政大学大学院客員教授、橋元國學院大學教授、さらに修了生の出身組織の代表者出席のもと、修了生が自らの論文の要旨を発表した。また修了式では神津 Rengo アカデミー校長（連合会長）から修了生一人ひとりに修了証が授与された（修了生20名、うち男性15名、女性5名）。

2) 第17回マスターコース

第17回マスターコースの開講にあたり、第25回マスターコース運営委員会および第38回教務委員会の合同委員会を開催し（2017年7月20日）、委員構成およびプログラム、学事日程、募集要項について審議し確認した。

プログラム等の作成にあたっては、引き続き、受講生所属組織の送り出しやすさと受講生本人の参加しやすさを基本に、合宿日程の効果的編成を心がけ、前・後期の講義科目の効果的な配置、講義テーマの明確化、ゼミ生同士の自主的な議論・研究に資する自主研究枠の確保に努めた。また、育児・介護等の家庭責任を担う場合でも受講できるよう、通学による参加も引き続き可能とした。

① 学事日程

受講生募集期間	2017年8月25日（金）～10月6日（金）
開講式・前期合宿	2017年11月19日（日）～24日（金）
後期合宿	2018年5月13日（日）～18日（金）
修了論文提出	2018年7月2日（月）
修了式	2018年10月3日（水）

② 応募資格と受講生

応募資格は、これまでと同様に、①教育文化協会の会員組織の役職員で、組合専従歴4年以上、あるいはそれと同等と認められ、組織代表者の推薦を受けた者、②連合構成組織およびその加盟組合、地方連合会の役職員で、上記要件を満たす者、③として①②と同等と認められる者、とした。受講料は、応募資格①と②の受講生は20万円、応募資格③の受講生は50万円とした（③は応募者なし）。

受講生は22名（男性18名、女性4名）で開講した。

③ プログラム

第17回では、これまでの運営経験や受講生のアンケート結果などを参考に、以下の見直しを行った（このほか、一部講義時間の変更を行った）。

科目の変更：「特別講義Ⅰ：人口減少・超少子高齢化社会の課題」（加藤久和 明治大学教授）および「特別講義Ⅱ：日本の財政と社会政策の課題」（井手英策 慶應義塾大学教授）から「日本財政と社会政策の課題」（加藤久和 明治大学教授）に変更した。また、「ファシリテーション・トレーニング」（浅野淳 j. union 専務取締役）を休講とし、「社会保障のとらえ方」（菅沼隆 立教大学教授）に変更した。加えて、「組合リーダーに聞く」から「労使コミュニケーションと組合リーダー」に変更した。

④ ゼミナール

講義のほかに開設しているゼミナールでは、担当講師からの指導を受けながらゼミ生相互間でも議論を重ね修了論文を作成する。受講生は受講申し込みの際に提出した「考察を深めたい課題」と「ゼミ選択希望」にもとづいて、5つのゼミのいずれかに属している（各ゼミ4～5名）。

第17回は、これまでと同様に、前・後期の合宿期間中にゼミを6回（1回2時間30分程度）と受講生だけの自主研究を3回、さらに、合宿期間外の自学自習期間中に必修ゼミを3回ないし4回行った。

ゼミの名称	テーマ	担当講師
禹ゼミ	グローバル化と日本の労働組合	禹宗杭 埼玉大学教授
木本ゼミ	少子高齢社会のなかの人間と労働組合	木本喜美子 一橋大学名誉教授
毛塚ゼミ	労働法と労働組合	毛塚勝利 法政大学大学院連帯社会インスティテュート客員教授
高木ゼミ	経済・産業と労働組合	高木郁朗 Rengo アカデミー副校長
橋元ゼミ	企業・職場と労働組合	橋元秀一 國學院大學教授

⑤ 聴講制度

マスターコースでは、時間的な制約から Rengo アカデミー・マスターコースの受講が難しい、という会員組織の声を受け、第3回から聴講制度を導入している。

第17回は、前期4科目、後期4科目で聴講生を募集（各科目定員4名）し、延べ

6名が聴講した。

(4) 専門講座、セミナー

1) 労働法講座（連合労働法制対策局と共催）

第12回労働法講座（基礎コース）は、働く者にとって必須である労働法制の基礎知識の習得と理解促進を目的に、会員組織および一般の方を対象に実施した（2017年10月30～31日、東京）。講座では、労働法の必要性・役割と全体像を鳥瞰したあと、労働基準法や労働契約法、労働組合法、労働紛争解決システムおよび関係法令について、直面する実務面の課題などを中心に学習するとともに、雇用・労働法制に係わる連合の取り組みや労働相談における労働法の活用についても学んだ。同講座には、会員組織や地方連合会から52名が参加した。

(5) ワークルール検定への運営協力

働く上で知っておくべきワークルールについて、普及・定着をはかる趣旨に賛同し、「一般社団法人日本ワークルール検定協会*」が主催する、ワークルール検定2017・秋（2017年11月23日／初級）、ワークルール検定2018・春（2018年6月10日／初級・中級）の実施・運営に協力した。

（※NPO法人職場の権利教育ネットワーク、連合、中央労福協等により構成されるワークルール検定中央実行委員会を母体として、2014年10月8日に設立）

(6) 労働運動を担う人材の育成に関するさらなる対応

労働運動を担う人材の育成に関して、さらなる対応をはかっていくため、連合広報・教育局（連合第15回定期大会以降は連合広報局および組織局）との情報交換、会員組織や地方連合会との意見交換等により、労働教育や人材育成に対するニーズの把握に努めた。

また、連合構成組織、地方連合会、当協会会員組織等の教育活動、学習会等のサポート資料として作成した「教育活動サポートのための講師リスト」については、随時、掲載情報を更新した。

2. 文化事業

(1) 第10回連合・ILEC 幸せさがし文化展作品の展示と表彰

2年に1度実施している「幸せさがし文化展」は、働く仲間とその家族の公募展として広く認知・信頼される文化展をめざして、労働界全体の取り組みとして位置づけ、連合と共催（第5回～）している。

第10回「連合・ILEC 幸せさがし文化展」は、これまでと同様に、絵画・写真・書道・俳句・川柳の5部門で募集を行った結果、絵画では118点、写真516点、書道187点、俳

句 863 点、川柳 2329 点（うち、題詠の「手」1194 点、「歩く」1135 点）の総計 4015 点の応募があった。これは、前回第 9 回における応募数を 319 点上回り、5 部門での開催をはじめた第 4 回（2005 年）以降で、最多の応募数となった。

各部門第一線の専門家による審査会において、入賞作品および特別審査員賞候補作品（入賞作品を除く初応募作品対象）が決定され、その後、会員組織等で構成する実行委員会による特別審査員賞審査会において特別審査員賞が決定した。それらの選考結果を第 4 回文化展実行委員会（持ち回り開催）で確認したのち、2017 年 7 月 3 日にホームページ上で発表した。

その後、2017 年 10 月 5～6 日の連合第 15 回定期大会において、各部門の連合大賞、ILEC 大賞、ジュニア特別賞とシニア特別賞の上位 4 賞受賞者を表彰するとともに、第 10 回の節目を迎えたことから、審査員を代表して、美術評論家で元世田谷美術館副館長の勅使河原純氏が挨拶および審査経過の説明を行った。

入賞作品については、連合定期大会期間に合わせ、同大会会場（東京国際フォーラム・ホール A 1F ロビー）で展示したほか、11 月 6～12 日に NHK ふれあいホールギャラリーでも展示を行い、計 336 名の来場者があった。あわせて、全入賞作品を掲載した入賞作品集（図録）を 1,000 部発行した。

（2）私の提言－第 14 回連合提言の募集と表彰、提言集の発行、第 15 回募集開始

当協会は、連合が 2004 年から継承した「山田精吾顕彰会論文募集」事業について、論文（提言）募集事業として連合との共催で取り組んでいる。募集にあたっては、会員組織をはじめ、「連合寄付講座」「地方連合会寄付講座」「Rengo アカデミー・マスターコース」等で関わりのある大学を通じて、大学生にも応募を呼びかけている。なお、本提言事業と連合運動の連携をより強化する目的で、運営委員会には連合本部も加わっている（第 12 回はオブザーバー、第 13 回以降は運営委員として参加）。

1) 第 14 回提言募集

第 13 回に引き続き、若い世代からの応募を期待し、学生特別賞（賞状と副賞 月 1 万円の奨学金×12 ヶ月）を設置するとともに、一般向けの募集サイトに募集案内を掲載するなど幅広い応募を喚起した結果、過去最多の 67 編（労働組合関係者 9 編、一般 45 編、学生 13 編）の提言応募があった。これらについて、2017 年 9 月 11 日の第 2 回運営委員会において審査した結果、優秀賞 1 編、佳作賞 1 編、奨励賞 3 編、学生特別賞 1 編を決定し、10 月 5～6 日の連合第 15 回定期大会で表彰するとともに、優秀賞受賞者の提言要旨の発表を行った。あわせて、入賞提言集を同日付で 3,000 部発行した。

2) 第 15 回提言募集

2018 年 2 月 15 日の第 1 回運営委員会において、募集内容を協議・確認の後、4 月 19 日の連合中央執行委員会に募集要項を提案し、確認された。募集期間は 4 月 19 日～7 月 27 日である。7 月 27 日の募集締め切りの後、応募提言の審査を行い、10 月 11 日の連合第 78 回中央委員会において入賞者の表彰と提言要旨の発表、入賞提言集の発行を

予定している。

3. 出版・広報事業

(1) 連合新書 No. 20 『ものがたり現代労働運動史 1』の刊行

連合新書No.1～10『ものがたり戦後労働運動史 I～X』の続編として、連合結成以降の労働運動に関する連合新書『ものがたり現代労働運動史 1』（執筆者：高木郁朗日本女子大学名誉教授、協力：教育文化協会、発行：明石書店）を、2018年6月30日付けで刊行した。本書は、連合結成以降の労働運動の歴史についてのシリーズの第1冊目として1989年～1993年を対象に、資料収集と聞き取り調査をもとにまとめられた。

(2) 連合新書・労働組合必携シリーズⅢ『壁の向こう側（仮称）』の刊行

連合新書 No. 16・労働組合必携シリーズ I 『壁を壊す』（執筆者：中村圭介東京大学教授（当時）、2009年5月刊行）で取り上げた非正規労働者の組織化事例に関して、組織化以降の取り組みの追跡調査等を踏まえ、『壁の向こう側（仮称）』として今年度中の刊行をめざしていたが、諸般の事情により刊行が遅れ、目下作業を継続中である。

なお、『壁を壊す』については、在庫が無くなったため、内容はそのままに新装版として2018年7月10日付けで1,000冊刊行した。

(3) 『連合運動史第5巻』の刊行

5年ごとに発刊する『連合運動史』の第5巻（対象期間：2009年10月～2014年9月）について、連合から事業受託し、2018年3月30日付けで500冊を発刊した（著者：飯田康夫氏、久谷與四郎氏、発行者・編者：連合運動史刊行委員会、印刷：太平印刷株式会社）。

(4) 連合寄付講座講義要録の作成とホームページへの掲載

同志社大学、一橋大学、埼玉大学での連合寄付講座について、講義要録を各大学と連携して作成し、大学と当協会のホームページにそれぞれ掲載している。今年度も講義要録を随時作成し、ホームページにアップした。

(5) Rengo アカデミー・マスターコース修了論文集と講義録の編集・頒布

第16回マスターコース修了論文集をまとめ、2017年9月29日の修了式に頒布した。

また、第16回マスターコースの浜村彰法政大学教授の講義「労働法の基礎」（2016年11月23日）を講義録No.22として、第17回マスターコースの宮崎徹早稲田大学講師の講義「現代日本経済論」（2017年11月22日）を講義録No.23として、それぞれまとめ、頒布した。発行部数は各550部ずつ。

(6) 労働関係書籍の紹介－「本と資料の紹介コーナー」

2010年3月に設置した書評委員会（主査：高木郁朗日本女子大学名誉教授）では、労働運動、労働組合の分野で読んでもらいたい本や経済社会問題などの重要な文献を選定・検討し、その内容を書評というかたちで当協会ホームページ上の「本と資料の紹介コーナー」で紹介している。2017年度は、書評委員会を2回開催して、今後取り上げる書籍と書評掲載スケジュールを確認した結果、紹介内容の更新を4回（2017年8月、10月、2018年2月、6月にそれぞれ掲載）行い、計13冊の書評を掲載した。書評はメールマガジンでも配信した。

(7) I L E C通信の発行とメールマガジンの配信

当協会の活動紹介を目的に、I L E C通信を3回発行し、会員組織（連合構成組織含む）、地方連合会等に配布した（No. 48：2017年10月26日付、No. 49：2018年1月15日付、No. 50：2018年4月19日付、各1500部）。

あわせて、Rengo アカデミー・マスターコースや専門講座の募集案内、私の提言などの募集案内等を中心に、当協会の活動をよりタイムリーに紹介するため、適宜メールマガジンを配信した。